

平成 25 年度

病害虫発生予報第 5 号

平成 25 年 8 月 29 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	12
5. 今月のトピックス(イチゴうどんこ病について)	13
6. 気象のデータ	14
7. おしらせ	16

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネ(普通期)では、斑点米カメムシ類の発生量は**多**と予想されます。周辺圃場の収穫状況に注意しながら、薬剤散布を行ってください。ツマグロココバイ、トビイロウンカの発生量は**平年並**と予想されます。

ダイズでは、吸実性カメムシ類の発生量は**やや多**と予想されます。圃場での発生状況に注意してください。ハスモンヨトウの発生量は**平年並**と予想されます。

2) 果樹

カンキツでは、黒点病の発生量は**やや多**と予想されます。感染源となる枯枝を除去し、予防散布に努めてください。かいよう病(温州)、ミカンハダニの発生量は**平年並**、かいよう病(中晩柑)、チャノキイロアザミウマの発生量は**やや少**と予想されます。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量は**やや少**と予想されます。

3) 茶

チャでは、チャノキイロアザミウマの発生量は**やや多**と予想されます。萌芽期～新芽生育初期に防除しましょう。クワシロカイガラムシの発生時期は**やや遅**、発生量は**やや多**と予想されます。圃場で幼虫の孵化を確認し、枝幹に薬液が十分かかるように防除しましょう。炭疽病、カンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイの発生量は**平年並**、チャノホソガ(第 4 世代幼虫)の発生時期は**平年並**、発生量は**少**と予想されます。

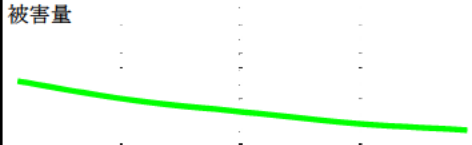
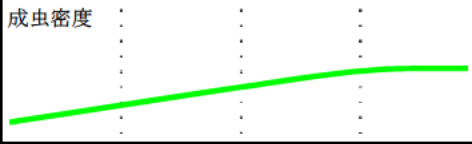
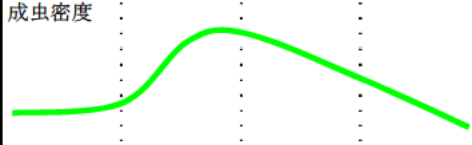
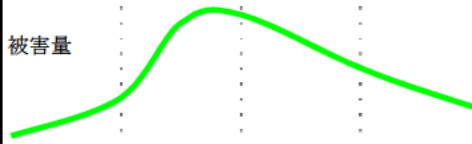
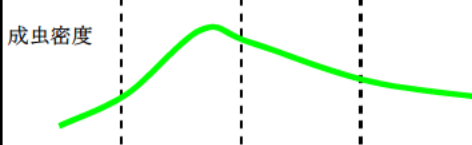
4) 野菜

イチゴでは、炭疽病の発生量は**平年並**と予想されます。

ネギでは、シロイチモジヨトウの発生量は**やや多**と予想されます。若齢幼虫を対象とした防除に努めてください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
			発生量	程度		8月	9月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	—	多	大	高	被害量				<ol style="list-style-type: none"> 1) 周辺圃場で収穫作業があるときは、侵入に注意してください。 2) 薬剤散布は穂揃い期に実施しましょう。 3) 防除後も水田への侵入が確認される場合は、穂揃い期防除の7～10日後に追加防除を実施してください。 4) 薬剤散布する場合は、周辺圃場の収穫状況を考慮してください。
	ツマグロヨコバイ	—	平年並	大	低	成虫密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 本年は発生密度が低いいため、実害は少ないと思われます。
	トビイロウンカ	—	平年並	小	低	成虫密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 多飛来が確認されていないので、防除の必要はありません。
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	平年並	中	普通	被害量				<ol style="list-style-type: none"> 1) 病害虫防除技術情報第11号(8月27日発表)。 2) 一部の圃場では、既に発生が確認されています。圃場を見回り、白変葉を目印として、早期発見に努めてください。 3) 薬剤散布は若齢幼虫期に行ってください。
	吸実性カメムシ類	—	やや多	中	普通	成虫密度				<ol style="list-style-type: none"> 1) 近年、ミナミアオカメムシの発生が増加しています。発生状況に注意してください。 2) 薬剤散布は結莢期～子実肥大期に行ってください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8月	9月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	黒点病	—	やや多	中	普通	発病密度				1) 乾燥が続くと樹勢の衰弱により枯枝が増加します。感染源となる枯枝の除去に努めてください。 2) 9月は後期感染の時期なので、感染防止に努めてください。
	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 やや少	温州 小 中晩柑 小	温州 低 中晩柑 低	発病密度				1) 発病した夏秋梢や果実等の除去に努めてください。 2) 防風対策を行うとともに、台風の接近が予想される場合は防除をしてください。 3) 高接樹や幼木については、ミカンハモグリガの防除も実施してください。
	ミカンハダニ	—	平年並	中	普通	ダニ密度				1) 秋になって急増することがあるので、発生状況をよく観察してください。 2) 1葉当りの雌成虫寄生数が0.5～1.0頭程度を目安に防除してください。 3) 抵抗性の発達を回避するため、同一系統の薬剤の連用を避けてください。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	中	普通	成虫密度				1) この時期の被害発生部位は果頂部で、果実肥大が緩慢になり被害が判りにくくなるため、丁寧な観察が必要です。 2) イヌマキ、サンゴジュ等の防風垣に隣接した樹で、被害が多くなることがあります。
果樹共通	カメムシ類	—	やや少	小	低	チャバネアオカメムシ				1) 例年飛来が多く見られる圃場では、圃場内の観察をきめ細かく行ってください。 2) 大雨、強風などの後に、急に圃場へ多数飛来することがあります。カンキツやカキ圃場等では、発生状況に十分に注意してください。 3) ナシ、ブドウの有袋栽培では、袋と果実が密着すると、袋の上から加害されることがあるので注意してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
			平年比	程度		8月	9月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	炭疽病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 防除適期は新芽1葉期です。三番茶芽を摘採しない圃場では、多発に注意しましょう。 降雨が続くと感染しやすくなります。降雨の前は予防剤で、降雨後は治療剤で防除しましょう。 同一系統の薬剤の連用は、耐性菌が出現しやすいので避けましょう。
	カンザワハダニ	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 秋口に気温が下がると多くなります。 薬剤がかかりにくい葉裏に生息していますので、丁寧に薬剤散布してください。 同一系統の薬剤の連用は、抵抗性が発達しやすいので避けましょう。
	チャノホソガ (第4世代幼虫)	平年並	少	小	低					<ol style="list-style-type: none"> 新芽開葉初期の孵化直後幼虫(潜葉期、絵描き状態)を対象に防除しましょう。 有効積算温度による発生活消長予測式では、第4世代幼虫発生時期は県下全域ともに8月第6半旬と予想されます。 病害虫防除所のホームページにフェロモントラップによる誘殺状況を掲載していますので参考にしてください。
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 晴天が続くと発生が多くなります。 新芽の伸張とともに増殖しますので、多発を確認したら萌芽期～新芽生育初期に防除しましょう。 一斉防除が効果的です。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや多	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 晴天が続くと発生が多くなります。 萌芽期～新芽生育初期に防除しましょう。 一斉防除が効果的です。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						8月		9月		
						下旬	中旬	下旬	中旬	
チャ	クワシロカイガラムシ	やや遅	やや多	中	普通		孵化幼虫密度			<ul style="list-style-type: none"> 1) 有効積算温度による発生活消長予測式では、第3世代幼虫孵化最盛日は北勢地域で9月第4～5半旬、中南勢地域の平坦地で9月第4半旬、中山間地で9月第5～6半旬と予想されます。 2) 防除適期は孵化最盛日から2～4日後頃です。 3) 圃場で幼虫の孵化を確認してから防除しましょう。 4) 樹冠内の枝幹に十分かかるように薬剤散布しましょう。
イチゴ	炭疽病	—	平年並	中	普通	発病密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 発病株は感染源となるため、周辺株も含めて速やかに除去し、圃場外に持ち出して適切に処分してください。 2) 薬剤による予防防除を徹底してください。葉かき作業後や降雨、台風等の前後は特に重点的に防除してください。 3) 耐性菌の発生を防ぐため、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。 4) 病原菌を含む水滴の跳ね返りによって感染が拡大します。水滴が跳ね返らないよう丁寧に灌水を行ってください。
ネギ	シロイチモジヨトウ	—	やや多	中	普通	成虫密度				<ul style="list-style-type: none"> 1) 幼虫の発生は8～10月に多くなります。 2) 幼虫は老齢になるに従って薬剤の効果が低下します。早期発見に努め、若齢のうちに防除してください。 3) 同一系統薬剤を連用すると薬剤抵抗性が発達しやすいため、異なる系統の薬剤をローテーション散布してください。

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	-	多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 予察灯では、クモヘリカメムシ誘殺数(8月第1半旬～8月第5半旬・松阪市)は、水田位置で27頭(平年6.9頭)と多、畑位置で164頭(6年平均129.0頭)とやや多の傾向、ミナミアオカメムシ誘殺数(6月第5半旬～7月第5半旬・松阪市)は、畑位置242頭(3年平均68.0頭)と多の傾向 (+) 2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率38.1%(平年33.2%)と多、20回振すくい取り虫数1.7頭(平年1.0頭)と多 (+) 3) 一般圃場では、発生量は平年並～多(概してやや多) (+) <p>考察： 予察灯、巡回調査結果および一般圃場の発生状況から、予想発生量は多と考えます。</p>
	ツマグロヨコバイ	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 予察灯(7月第4半旬～8月第3半旬・松阪市)では、誘殺数は水田位置で5頭(平年9.2頭)と平年並、畑位置で3591頭(6年平均2339.3頭)と多の傾向 (+) 2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率35.3%(平年33.5%)とやや多、払い落とし成幼虫数3.6頭(平年8.7頭)と少 (±) 3) 一般圃場では、発生量は無～平年並(概して平年並) (±) <p>考察： 巡回調査結果および一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	トビイロウンカ	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 予察灯(5月第1半旬～8月第5半旬・松阪市)では、0頭(平年2.8頭)と平年並に少 (±) 2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率0%(平年0.6%)と平年並に少、払い落とし成虫数0頭(平年0.4頭)と平年並に少 (±) 3) 一般圃場では、発生量は無～平年並(概して平年並に少) (±) 4) 九州地域では、圃場での発生状況から、警報および注意報を発表 (+) <p>考察： 予察灯、巡回調査結果および一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ダイズ	ハスモンヨトウ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月23日発表)では、平年に比べ曇りや雨の日が多い予想 (-)</p> <p>2) フェロモントラップ(7月第6半旬～8月第5半旬)では、誘殺数は菰野町で552頭(7年平均1288.0頭)と少の傾向、津市で1068頭(7年平均755.3頭)と多の傾向、松阪市嬉野川北町で286頭(平年436.2頭)と少、松阪市藤之木町(8月第1半旬～第5半旬)で1226頭(7年平均1617.6頭)とやや少の傾向 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、葉食害度0(平年0.08)と平年並に少、1a当り白変か所数0か所(平年0.9か所)と平年並に少。8月第4～5週に一部の圃場で幼虫による食害を確認 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少～やや多(概して平年並)。一部の圃場で白変葉の発生を確認 (+)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少ない状況ですが、既に圃場での発生が確認されており、今後の増加を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	吸実性カメムシ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯では、ミナミアオカメムシ誘殺数(6月第5半旬～7月第5半旬)は242頭(3年平均68.0頭)と多の傾向、イチモンジカメムシ誘殺数(6月第5半旬～8月第5半旬)は52頭(平年54.1頭)と平年並 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、25株当り寄生虫数0頭(平年0.08頭)と平年並に少 (±)</p> <p>3) 水稻巡回調査圃場(8月第2週)では、ミナミアオカメムシ成幼虫の発生を確認 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並～多(概してやや多) (+)</p> <p>考察：予察灯、水稻巡回調査結果および一般圃場での発生状況から、予想発生量はやや多と考えます。</p>
カンキツ	黒点病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月23日発表)によると、降水量は少ない予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(8月下旬、無防除)では、果実発病度73.6(平年62.3)と多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、果実発病度4.3(平年3.4)とやや多 (+)</p> <p>4) 広域防除員による調査(8月上旬)では、発生量は平年並 (±)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>6) 感染源となる枯枝の発生量はやや多 (+)</p> <p>考察：現状の発生量はやや多と考えられ、感染源となる枯枝の発生量がやや多いことから、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	かいよう病	-	温州 平年並 中晩柑 やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月23日発表)によると、気温は低くなく、降水量は少なくない予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(8月下旬、新甘夏、無防除)では、発病葉率 1.5%(8年平均 12.7%)と少の傾向、発病果率 3.3%(平年 42.3%)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)のうち、温州みかんでは春葉発病度 0.04(平年 0.1)、果実発病度 0(平年 0.3)といずれも平年並 (±)</p> <p>4) 巡回調査圃場(8月第2週)のうち、中晩柑では春葉発病度 0.4(平年 2.2)と少、果実発病度 0.2(平年 2.9)と少 (-)</p> <p>5) 広域防除員による調査(8月上旬)では、発生量は平年並 (±)</p> <p>6) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：温州みかんでは、現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、予想発生量は平年並と考えます。中晩柑では、現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	ミカンハダニ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月23日発表)によると、降水量は少なくない予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃(8月下旬)では、100葉当り寄生頭数は無防除区 2.2頭(平年 35.8頭)と少、慣行防除区 1.1頭(平年 31.3頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率 38.5%(平年 37.7%)と平年並、春葉における寄生葉率 9.7%(平年 6.2%)と多、寄生頭数 0.20頭/葉(平年 0.28頭/葉)と平年並 (±)</p> <p>4) 広域防除員による調査(8月上旬)では、発生量はやや少 (-)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：巡回調査結果および一般圃場の状況を重視して、現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃黄色粘着トラップ(8月中旬)では、誘殺数 3.6頭(平年 11.6頭)と少 (-)</p> <p>2) 県予察圃(8月下旬、無防除)では、100果当り寄生虫数 2.5頭(平年 4.0頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、被害果率 0.6%(平年 2.2%)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹共通	カメムシ類	-	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 予察灯(御浜町:8月11日~20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 354頭(平年 593頭)とやや少、ツヤアオカメムシ 68頭(平年 33頭)と多 (±) 2) 予察灯(松阪市:7月26日~8月25日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 78頭(平年 455頭)、ツヤアオカメムシ 6頭(平年 76頭)、クサギカメムシ 29頭(平年 109頭)といずれも少 (-) 3) フェロモントラップ(7月17日~8月16日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は山地(津市白山町川口)で 10頭(平年 1,055頭)、中間地(津市白山町二本木)で 10頭(平年 2,132頭)、平坦地(松阪市嬉野川北町)で 0頭(平年 408頭)といずれも少 (-) 4) 巡回調査圃場(8月第2週)では、ナシ(無袋栽培)での被害果率 0.5%(8年平均 1.4%)とやや少の傾向、カキでの被害果率 0%(平年 0.6%)と平年並、カンキツ、ナシ、カキ、ブドウ圃場への成虫飛来は未確認 (±) 5) 一般圃場では、発生量はやや少 (-) <p>考察: 現状の発生量は少と考えられますが、今後は新成虫が発生する時期であり、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	炭疽病	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(8月23日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多い予想 (+) 2) 県予察圃(二番茶期、6月中旬)では、発病葉数 0.1枚/m²(9年平均 0.8枚/m²)と少の傾向 (-) 3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率 43.5%(平年 19.5%)と多、新葉発病葉率 1.3%(平年 0.8%)と多 (+) 4) 一般圃場では、発生量はやや少 (-) <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられますが、巡回調査結果および気象要因から今後の増加を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
チャ	カンザウハダニ	-	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(8月23日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多い予想 (-) 2) 県予察圃(8月中旬)では、寄生葉率 1.0%(平年 8.3%)と少、寄生頭数 0.05頭/枚(平年 0.45頭/枚)と少 (-) 3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率 13.0%(平年 12.7%)と平年並、寄生葉率 0.5%(平年 1.4%)と少、寄生頭数 0.02頭/枚(平年 0.07頭/枚)と少 (-) 4) 一般圃場では発生量は平年並だが、一部圃場で増加の傾向 (+) <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられますが、今後の増加を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノホソガ (第4世代幼虫)	平年並	少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃における第2世代成虫発生最盛期は、7月第4半旬(平年7月第4半旬)と平年並(発生時期±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(8月第1半旬~8月第5半旬)では、誘殺数122頭(平年1567.5頭)と少(-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率8.7%(平年25.7%)と少、巻葉数0.1枚/m²(平年3.1枚/m²)と少(-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少(-)</p> <p>考察: 第2世代成虫発生時期から、第4世代幼虫の発生時期は平年並と考えます。現状の発生量は少と考えられ、引き続き予想発生量は少と考えます。</p>
	チャノミドリヒメヨコバイ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃吸引粘着トラップ(7月第6半旬~8月第5半旬)では、捕殺数9頭(平年17.9頭)と少(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率69.6%(平年32.7%)と多、叩き落とし虫数1.7頭(平年0.9頭)と多(+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</p> <p>考察: 一般圃場の状況を重視して、現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃吸引粘着トラップ(7月第6半旬~8月第5半旬)では、捕殺数4526頭(平年7126頭)とやや少(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率95.7%(平年74.2%)と多、叩き落とし虫数18.8頭(平年7.5頭)と多(+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多(+)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	クワシロカイガラムシ	やや遅	やや多	<p>要因</p> <p>1) 有効積算温度による発生消長予測式では、亀山市における第3世代幼虫孵化最盛日は9月18日(平年9月15日)とやや遅(発生時期+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率78.3%(平年65.0%)と多、雄繭寄生株率7.0%(8年平均5.6%)と多の傾向、雌成虫寄生株率12.7%(平年6.4%)と多(+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多(+)</p> <p>考察: 発生消長予測式から、第3世代幼虫の予想発生時期はやや遅と考えます。現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
イチゴ	炭疽病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月23日発表)によると、気温は低くなく、降水量は少なくない予想(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週、苗床)では、発病株率0.1%(平年0.9%)とやや少であるが、一部圃場では発病株を処分済み(±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少)(-)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられますが、今後の気象条件による増加を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ネギ	シロイチモジヨトウ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月23日発表)によると、気温は低くなく、降水量は少ない予想 (-)</p> <p>2) フェロモントラップ(松阪市・7月第5半旬~8月第4半旬)では、成虫誘殺数90頭(平年47.6頭)と多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、被害葉率0%(平年1.4%)と平年並 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並~やや多(概してやや多) (+)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並と考えられますが、フェロモントラップ誘殺数および一般圃場の状況から今後の増加を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価	早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

			平年値 ↓			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並	やや多	多	

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス「イチゴうどんこ病について」

イチゴうどんこ病とは？

イチゴうどんこ病は、果実、葉、果梗、蕾などの各部位に発生します(図1)。特に果実に発生すると商品価値が失われることから、イチゴの重要病害となっています。

うどんこ病は作物ごとに病原菌が異なり、イチゴうどんこ病はイチゴ以外の作物には感染しません。

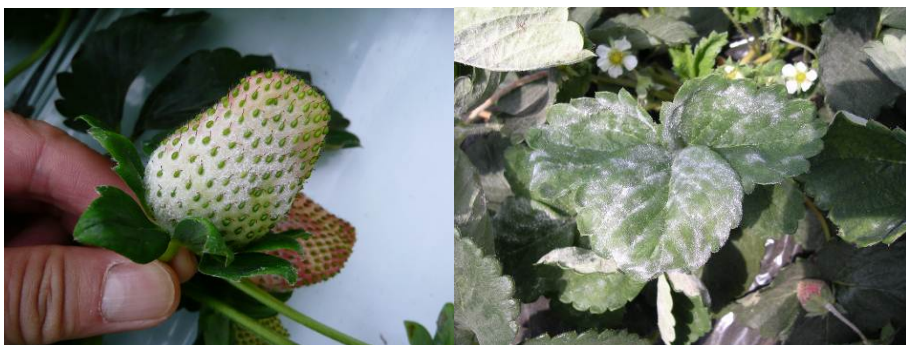


図1. イチゴの果実及び葉の病徴(三重県農業研究所 黒田克利氏原図)

病徴と被害

本病は初め葉に発生し、表面にクモ糸状のカビ(菌糸)を生じ、その後うどん粉を撒いたような白い粉状の胞子が形成されます。蕾に発生すると、花弁が紫紅色に着色し、開花しても果実が肥大しなくなります。未熟な果実に発生すると肥大が悪くなるとともに、成熟しても果色が悪くなります。

三重県では育苗期の6~7月に発生が多い傾向ですが、真夏に入ると高温により抑制されます。しかし、本圃定植後は気温の低下に伴い、11~2月頃に再び発生します。また、発生量は年次によって差が見られます(図2)。

病原菌の特徴

病原菌(*Sphaerotheca aphanis*)は子のう菌類と呼ばれるカビ(糸状菌)の一種で、

生きた植物でしか増殖できません。胞子の発芽適温は17~20前後ですが、0前後の低温に遭遇するとかえって発芽しやすくなることから、比較的低温性の病原菌です。

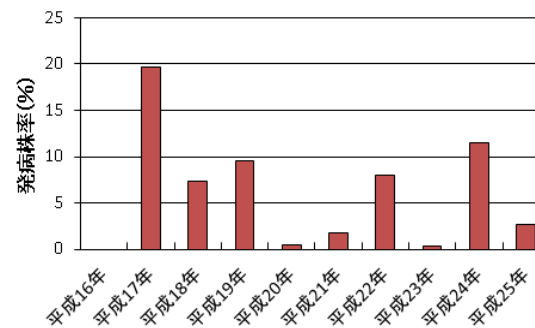


図2. 県内のイチゴうどんこ病発生状況の推移

7月における年度別巡回調査結果。
各圃場50株、育苗圃における調査。

発生しやすい条件

他の多くの病害と比べ、本病は乾燥条件でも感染・発病するため、ハウスで多発することがあります。また、生育が旺盛な時と比べ、草勢が衰えた時に多発します。このため、育苗時には親株が先に発病し、その後子苗に伝染します。

防除対策

- 1) 発病部位は伝染源となるため、見つけ次第速やかに取り除いてください。
- 2) 一度多発生すると防除は困難なため、薬剤防除は発生前の予防に重点を置いて実施してください。
- 3) 育苗期の防除を徹底し、感染苗の本圃への持ち込みを防いでください。
- 4) 本圃での予防には、硫黄粒剤の加熱くん煙処理による防除が有効です。
- 5) 発病を認めたときは、散布間隔を短縮して集中的に散布し、感染拡大を防いでください。
- 6) 葉裏から発生しやすいので、防除を行うときは薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布してください。
- 7) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一薬剤の連用は避けてください。

6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 25 年 8 月 23 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう 1 か月は、低気圧と高気圧が交互に通り天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。特に期間の前半は、少雨の状態が続く見込みです。

1 週目 8 月 24 日～ 30 日	期間のはじめは気圧の谷や湿った気流の影響で雨が降るでしょう。その後は高気圧に覆われて概ね晴れる見込みです。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 1.9 日・4.5 日
2 週目 8 月 31 日～ 9 月 6 日	高気圧に覆われて晴れる日がありますが、気圧の谷や湿った気流の影響で平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。	同 2.0 日・4.3 日
3～4 週目 9 月 7 日～ 20 日	低気圧と高気圧が交互に通り天気は数日の周期で変わりますが、気圧の谷や湿った気流の影響で平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。	同 5.0 日・7.4 日

東海地方週間天気予報 (平成 25 年 8 月 28 日 10 時 35 分 名古屋地方気象台発表)

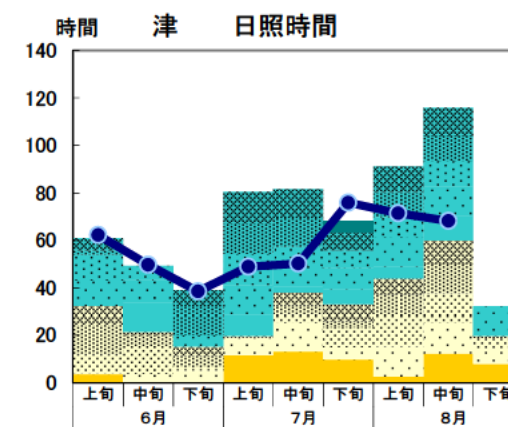
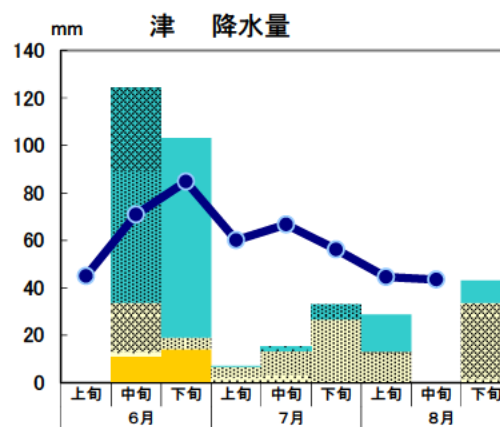
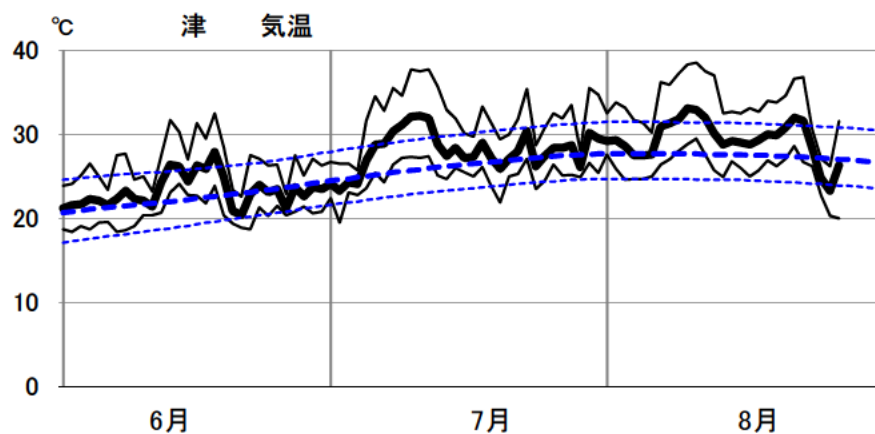
予報期間 8 月 29 日～9 月 4 日

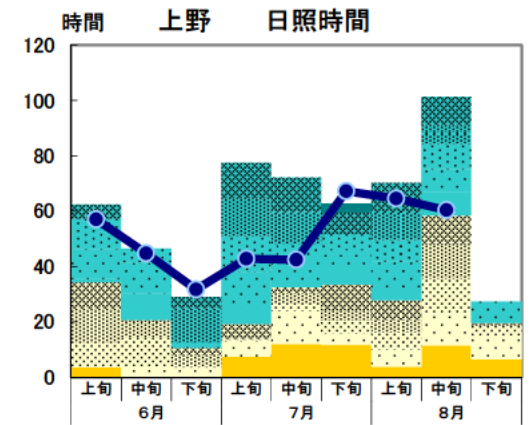
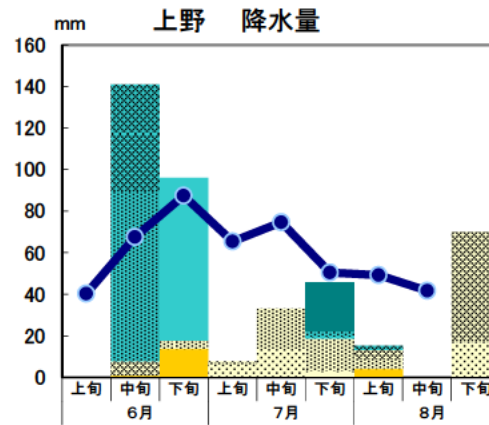
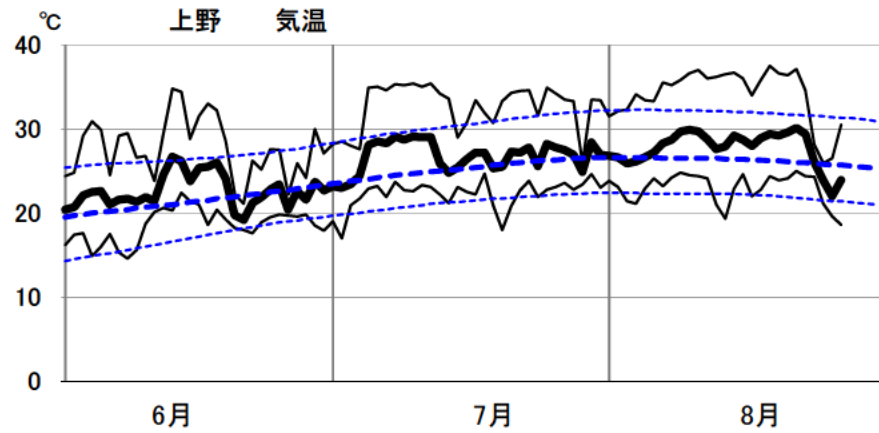
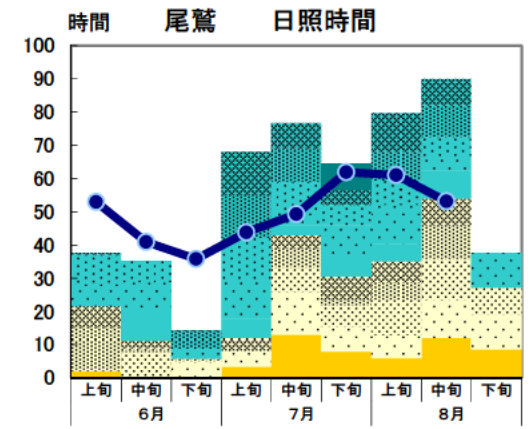
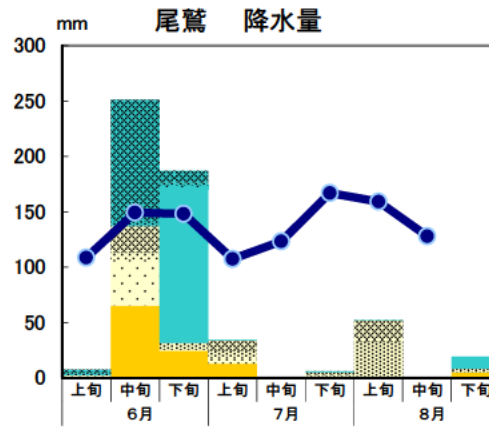
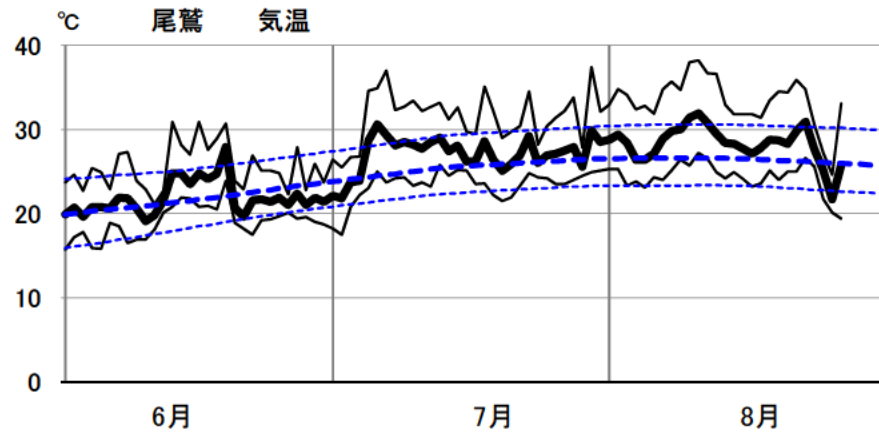
向こう一週間は、29 日は高気圧に覆われて晴れますが、その後は気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすく中頃は雨が降るでしょう。なお、9 月 1 日から 2 日は台風第 15 号の影響を受けるおそれがあります。

最高気温と最低気温はともに、平年並か平年より高い見込みです。

降水量は平年並か平年より多いでしょう。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (8 月 27 日まで)





- 凡例
- 平均
 - 最高
 - 最低
 - - - 平年平均
 - - - 平年最高
 - - - 平年最低

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

- 凡例
- 31日
 - 旬10日目
 - 旬9日目
 - 旬8日目
 - 旬7日目
 - 旬6日目
 - 旬5日目
 - 旬4日目
 - 旬3日目
 - 旬2日目
 - 旬1日目
 - 旬平年値

7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- | | |
|---------------|---------------|
| 第1回 4月25日(済み) | 第2回 5月23日(済み) |
| 第3回 6月20日(済み) | 第4回 7月25日(済み) |
| 第5回 8月29日(今回) | 第6回 10月24日(木) |
| 第7回 3月20日(木) | |

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h25yohotebiki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm